



学区コミュニティの環境活動

落書き消し 美しいまちづくりの一つ

コミュニティ推進協議会では、環境をよりよくする活動を事業の一つに掲げ、まちの美化、不法投棄や落書き防止などを進めると同時に、「環境部門推進者のつどい」を設置して、全市的に環境問題に取り組む、各学区では落書き消し活動も実施しています。

今年度は22学区のコミュニティで組織するコミュニティ推進協議会では、「環境部門推進者のつどい」の委員に、各学区コミュニティから1名を派遣することにし、市内の全域で環境問題に取り組むことができるようにしました。

また、美しいまちづくりの一步にしようと、複数の学区では環境を担当する部員などが中心となって、自分たちの学区内の落書き被害状況の再調査や、公共物などに書かれた落書きを消す作業などを進めています。

しかし、落書きが減少することは

ありません。橋桁などの公共物だけでなく、企業や個人所有の施設への落書きもあり、落書き消し活動の難しさがあります。

消去作業では、落書きされている



桐木田の橋桁〈中小路学区〉

物件や、使用している塗料などによって消去方法も様々で、消した後が汚くならないような方法を見極めることにも苦勞しています。

中小路を住みよくする会、大みかコミュニティ推進会、成沢ふれあい推進会、埴山学区住みよいまちをつくる会、水木学区市民運動推進会などが、学区内の目立っている場所の落書き消し作業を実施しました。

大みか学区では昨年の経験を生かし、素地が粗い場所や塗装の下地が現れる場所は、類似のペンキで補修し、公共物以外の建造物は、持ち主に落書き消しにかかったペンキや薬品代の一部をもらうなどの対策をしながら、この落書き消し作業を進めています。



事務所の塀〈埴山学区〉



道路脇の壁〈成沢学区〉



陸橋下プレハブ倉庫〈大みか学区〉

ご近所の底力大賞 滑川まちづくり市民の会が受賞



受賞する遠藤会長

昨年度から茨城県がはじめた、コミュニティ再生や活性化を促進する「ご近所の底力再生事業」の一環として創設した「いばらきご近所の底力大賞」に、滑川学区の「滑川まちづくり市民の会」が選ばれました。

県内の市や町から選ばれた12団体とともに、7月8日の霞ヶ浦文化体育会館で開催された「ご近所の底力再生事業推進大会」の席上で表彰を受けました。

常陽銀行70周年記念 学区コミュニティにテント贈る

今年の7月に常陽銀行から、22学区コミュニティにテント1張ずつが贈られました。これは常陽銀行が創立70周年を記念して、市民活動支援のために実施されたものです。

様々なイベントや事業を開催している学区コミュニティではこのプレゼントに大喜び。寄贈されたテントは有効に活用されています。

コミュニティ推進協議会

学区の特色あるまちづくりを目指す

30年の活動の歴史を持つコミュニティ推進協議会は、22の学区コミュニティ組織で構成しています。この協議会は行政とのまちづくりのパートナーとして環境、防災、防犯、地域福祉、健康などのテーマで、さまざまな活動を進めています。



会長 鴨志田勝雄さん

今年度の役員改選で、新会長に選ばれた鴨志田会長に、コミュニティ活動の現状や会の運営方針などを聞きました。

●近年、行政や社協からのさまざまな事業などがどんどん流れてきて、一律に活動しなければならない傾向にある。そのため学区コミュニティや地区社協の現場にはハード感がある。学区独自の特色ある運営ができるようにしたいと思う。

●現在、隔月開催しているコミュニティ推進協議会の役員会や会長会議を、毎月開催して、多様化した行政からの要請に、主導権をもって対応したい。そのためにも遠慮なく自由に会議できるコミュニティ推進協議会の事務所と事務局がほしいと思う。

そして、各単会の名称統一なども検討し、この会が市民権を得られるようにしたい。

●18年度からコミセン、公民館、ふれあいプラザなどの統一管理が始まり、コミュニティ活動の拠点が整備されることになった。22の学区コミュニティの会長が、運営委員長をつとめることになるが、自分たちで管理するのだという意識をもってこの任に当たり、ぜひ成功させたい。

学区コミュニティの力が試されることになるが、力を合わせて新たな活動の方向を目指したい。

日立市コミュニティ推進協議会 会員

(敬称略)

No.	会の名称	単会会長	コミ推協役員
1	豊浦学区まちづくり推進会	鈴木 裕	
2	日高学区市民自治会	志賀 勝弘	
3	田尻学区市民運動をすすめる会	大高 弘	
4	滑川まちづくり市民の会	遠藤 進	
5	宮田学区市民運動をすすめる会	大内 十寸	幹 事
6	中里を住みよくなる会	平塚 信介	
7	仲町学区内を住みよくなる会	古河 利孝	監 事
8	中小路を住みよくなる会	横田 寿子	副会長
9	助川まちづくり協議会	永井 久善	幹 事
10	会瀬学区市民運動推進会	柴田 和彦	副会長
11	成沢ふれあい推進会	関 正一	
12	油繩子学区住みよいまちをつくる会	嶋崎 敏	監 事
13	諏訪学区明るい市民の会	齋藤 邦夫	
14	明るい大久保市民の会	蛭田 保夫	
15	河原子連合自治会	梅原 孝喜	
16	埴山学区住みよいまちをつくる会	西村ミチ江	幹 事
17	大沼学区コミュニティ推進会	大江日出雄	
18	金沢学区コミュニティ推進会	鴨志田勝雄	会 長
19	水木学区市民運動推進会	瀬谷 俊一	幹 事
20	大みかコミュニティ推進会	山口 勇	
21	久慈学区明るく住みよいまちをつくる会	星野 高恵	
22	坂下地区市民運動をすすめる会	根本 通明	

十王町域コミュニティづくり コミュニティ活動の現状を視察

十王町でのコミュニティ組織づくりが始まりました。6月28日(火)、第1回十王町域コミュニティ設立準備委員会が開催され、櫻村次男さん(区長会会長)を委員長に、副委員長に大内操さん(体育協会十王地域振興会副会長)が選ばれました。

専門部や支部を含めた組織づくりの検討と同時に、住民への広報を通した啓発活動も行われます。

また、すでに30年の活動実績をもつ、日立市のコミュニティ活動を視察するため、7月29日(金)には金沢学区コミュニティ推進会を訪

れ、コミセンの運営や管理体制、広報紙の配布、役員を選出、事務局体制、会費の状況、総会の対象、個人情報管理などについて活動の現状



質問は多岐にわたって

を学びました。

委員会ではコミュニティ組織の立ち上げを平成18年3月とし、今後2週間に1回くらいの割合で積極的に会議が開催されます。

コミュニティ活動の30周年を祝う

— 祝賀会と記念誌の発行 —

日立市コミュニティ推進協議会の発足30周年を記念して、祝賀会が開催され、永年功労者への感謝状の贈呈、記念誌の紹介などが行われました。

祝賀会には来賓をはじめ、関係各課の方々、22学区コミュニティの役員やリーダー、永年功労者、記念誌編集委員、事務局など約120名が出席しました。

祝賀会では挨拶や祝辞の後、30年の活動を振り返りながら記念誌を披露し、各学区で会長として長年貢献してきた方々へ感謝状が贈られるなど祝賀ムードがいっぱいの会となり、コミュニティ活動の飛躍を誓い合いました。

遠藤進祝賀会実行委員長は、ここ10年間の活動を振り返り、ゴミの完全分別収集や有料化、落書き消し活動、防災や防犯組織の立ち上げ、コミュニティプランやマップ作成など、計画的で地味な活動を、行政と協力しながら積み重ねてきたことを話しました。

コミュニティ推進協議会の会長に就任したばかりの鴨志田勝雄さんは、22学区に活動拠点ができることになったことを報告しました。

櫻村日立市長や永山市議会議長は、市民が主体となって地域に密着した活動を展開している日立市のコミュニティ活動に対する高い評価と期待

を寄せました。

記念誌編集委員会は、1974年（昭和49年）の茨城国体を契機に始まった市民運動が、行政主導から市民主体に移り、さらに市民と行政

の協働によるまちづくりへと続いてきた日立市コミュニティ推進協議会30年の歩みを報告し、記念誌を市長に贈呈しました。

永年功労表彰を受けられた方々

30周年を記念して日立市のコミュニティ活動に尽力され、単会会長として10年以上活動されている方々に感謝状が贈られました。



佐藤昭二さん
(水木学区)



小松 正さん
(日高学区)



大高 弘さん
(田尻学区)



横田寿子さん
(中小路学区)



古川 稔さん
(塙山学区)



岡部光雄さん
(大久保学区)



柴田和彦さん
(会瀬学区)



大江日出雄さん
(大沼学区)

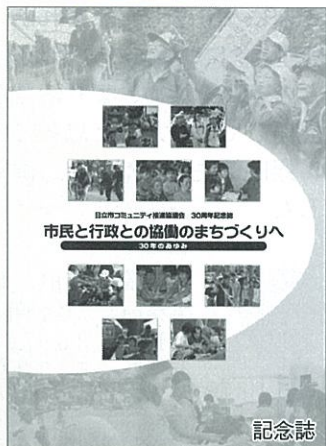


遠藤 進さん
(滑川学区)



星野高恵さん
(久慈学区)

30周年記念誌 多彩な活動への記録



日立市コミュニティ推進協議会の30周年記念誌が完成しました。環境問題からスタートし、青少年育成、地域福祉、防災や防犯など多彩なテーマに取り組んできたコミュニティ活動の歴史を記録しました。

また、昭和46年7月、小学校区単位のコミュニティ活動開始への日立市の考え方が示され、市民活動部が新設されたことも、当時の市報の記事で紹介しています。

現在では行政との協働のまちづくりへ変化しつつありますが、22の単会の特色ある運営や活動などを紹

介し、子どもたちの地域への期待なども掲載しました。

記念誌はA4判80ページの体裁になっており、各コミュニティセンターや公民館においてあります。

掲載内容

- ①日立市コミュニティ推進協議会の歩み
- ②日立市コミュニティ推進協議会の各種活動の記録
- ③日立市コミュニティ推進協議会各単会活動の紹介
- ④単会活動拠点、単会歴代会長紹介などです。



コミュニティ推進協議会 単会リレー訪問

市内には小学校区をエリアにコミュニティ活動をする団体が22あります。それぞれ地域の特色を活かしながら、住民と一緒に住みよいまちをつくる活動を続けています。今回は明るい大久保市民の会を紹介します。

ニーズに合わせたまちづくりを

～明るい大久保市民の会～

地区の特徴

大久保学区は、市の中心部よりやや南寄りになる位置に所在し、中央部に国道6号線が横断し、さらにJR多賀駅から西に「よかっぺ通り」それに交差する「アンズ通り」「すずらん通り」と、商店街が多く秋には「よかっぺ祭り」で賑わいます。

この交差する周辺が学区中心部にあたります。日立市中部支所、多賀消防署、多賀町交番、教育会館、勤労青少年ホーム、すえひろ老人の家、すえひろ児童館、大久保小学校、保育園、電鉄プラザ、明るい大久保市民の会の事務所など公共施設が密集しており、地域の人たちと接する機会が多く自然に交流されています。

会の構成

市民の会の活動は、事務局を大久保小学校旧用務員住宅に置き、会長は社会福祉協議会の会長も兼ねているので、横のつながりが密接になっています。役員は会長、副会長、事務局長、専門部長、地区長、諸団体長、会計監査、顧問などを置き、専門部は企画総務部、広報部、環境美化部、文化体育部、防災部、青少年育成部、健康づくり推進部の7部門です。

毎月開催の役員会で方針を決定します。学区全体を6地区に分けて、

地区ごとに地区長を置き、地域の意見や要望等を役員会に反映できる体制をとっています。さらに市報配布や地域のお世話役などを担当するコミュニティ推進員を置いています。ま



初出場!! 常陸よさこい夢風神



ふれあい消火体験

た、学区の各種団体の8団体からも1名ずつが役員として組織化され、連携し運営しています。

特色ある行事

●大久保ふれあいまつり

恒例のふれあいまつりが16回目を迎え、昨年11月に開催、地域住民2000人が参加しました。これは大久保学区全住民参加の行事で、実行委員会には各種団体からも実行委員になってもらい、1種類の催し

物がノルマとして与えられます。

例えば、地区長による昔遊び、防災部の消火訓練、社協では健康コーナー、小学生のダンス、中学生のミニコンサートなどがあり、さらに毎回サブテーマを一般から募集して決めています。第16回は「祭りだ! 気合だ! ハイ・ハイ・ハイ」で、小学校校庭とすえひろ老人の家、両会場が賑わいました。

●イワナのつかみどり

これも恒例になってきた夏の行事で、大久保風穴下の桜川上流で子ど



いわなのつかみどりに夢中

もからお年寄りまでが参加します。会場や道路のごみ拾いをしながら環境美化につとめるイベントで、毎回300名くらいの参加者があります。

今後の展望

地域の皆さんが長い間切望してきた新しい活動拠点が、平成18年4月に(仮称)中部合同庁舎に移設されることになりました。これからは統一管理運営についての検討は勿論、地域との連携を深め、より活発な活動を展開していきたいと思っております。と、蛭田保夫会長は希望に満ちていました。



会長 蛭田 保夫
事務局 大久保小田原貞生
TEL 36-7667
世帯数 5,039戸
人口 12,149人
(平成17年6月1日現在)